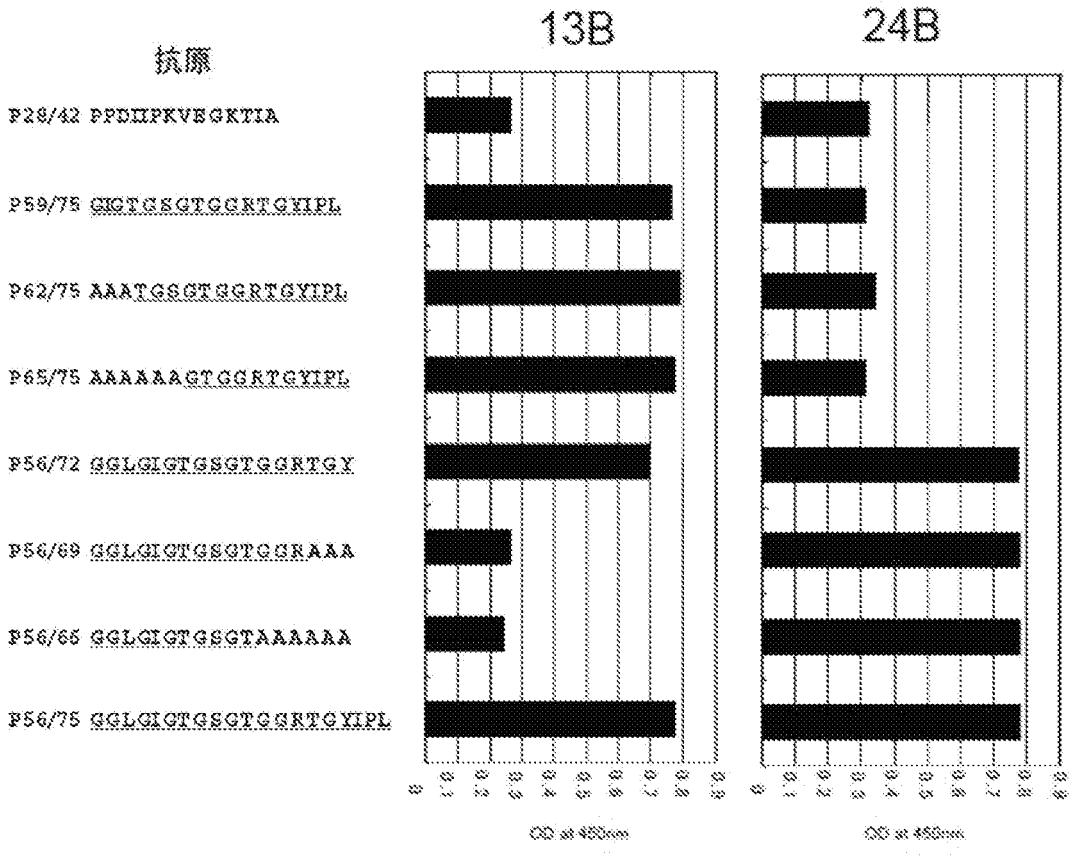
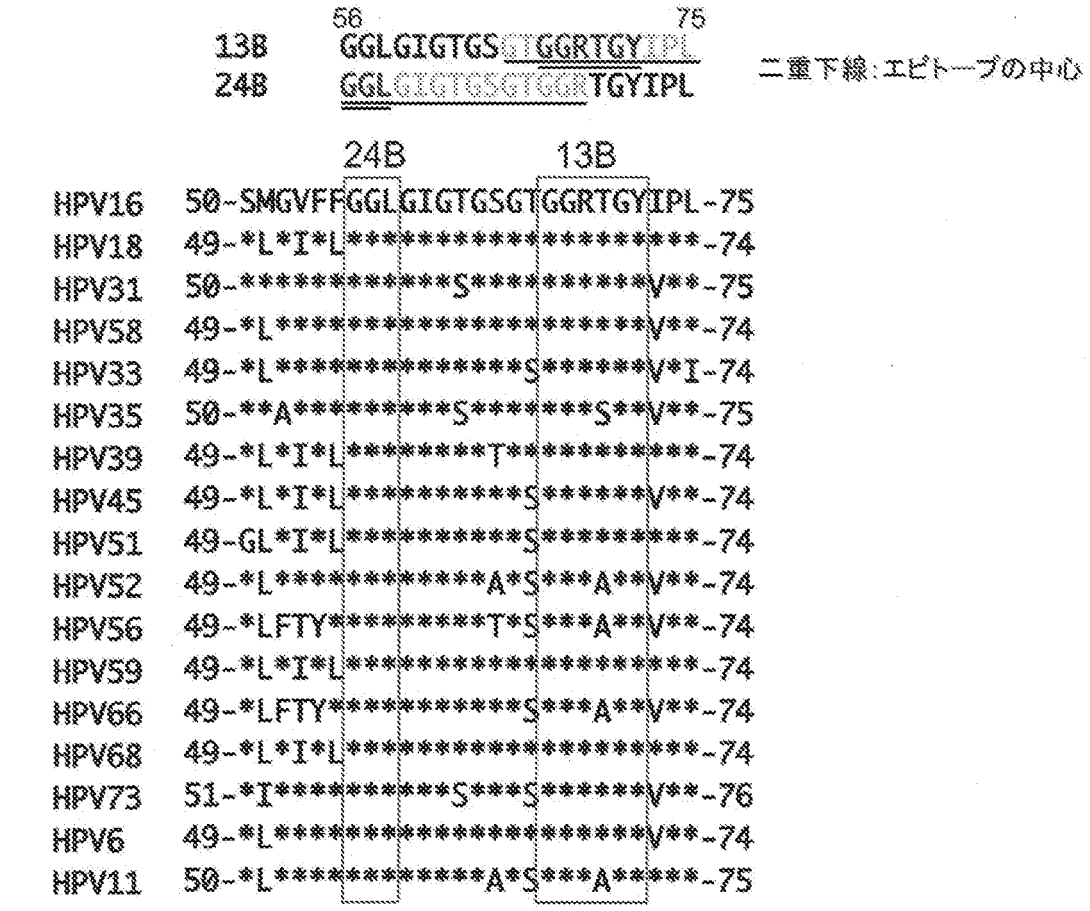
[図1]

図1: ELISAによるエピトープマッピング



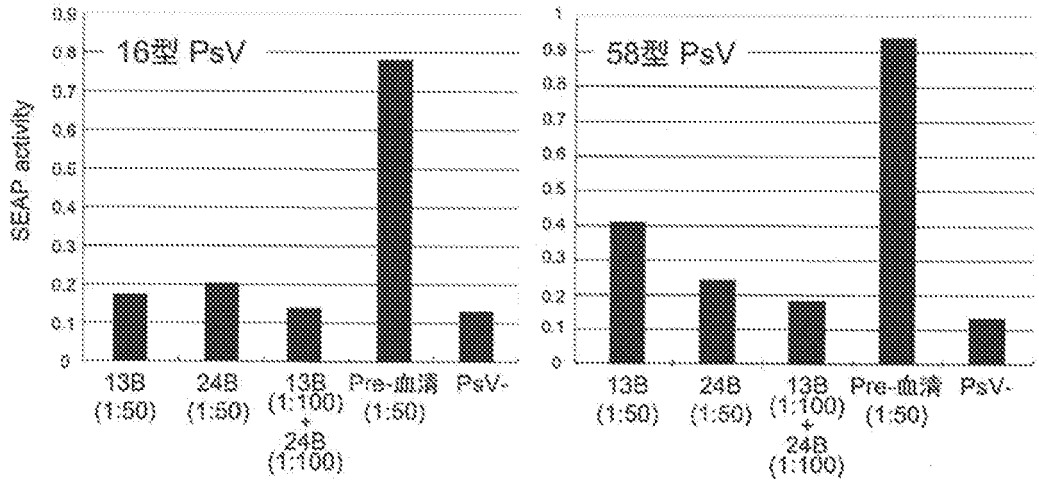
[図2]

図2: モノクローナル抗体13B、24Bが認識するL2エピトープ



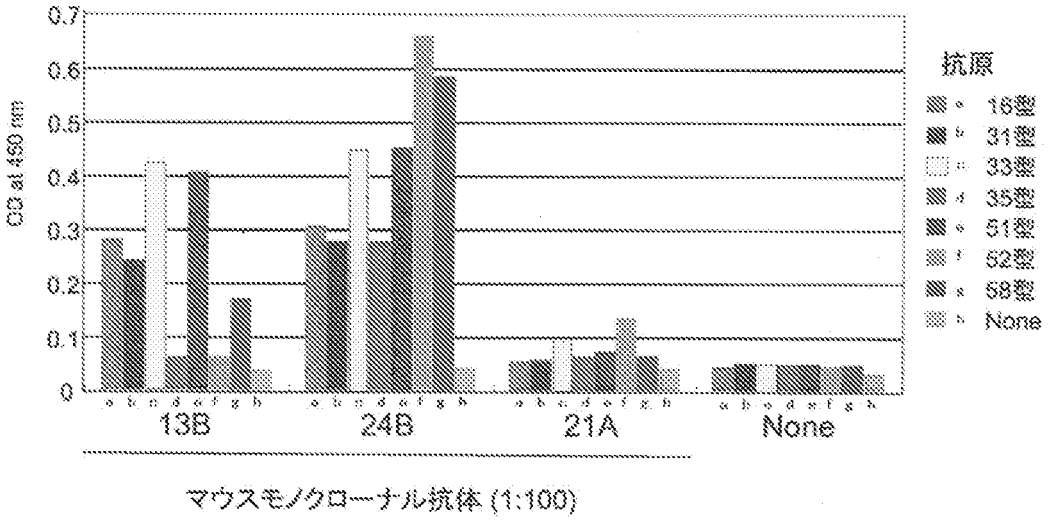
[図3]

図3:モノクローナル抗体13B、24BによるHPV偽ウイルス(PsV)の中和



[図4]

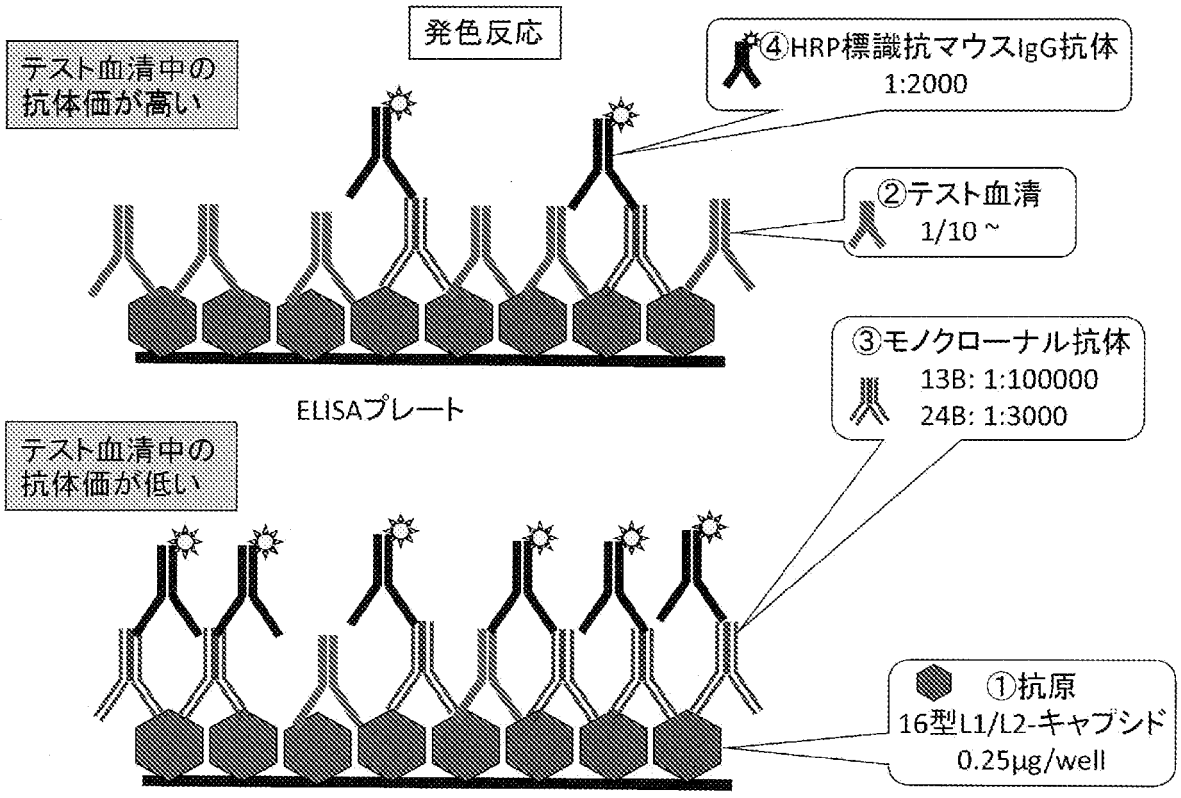
図4:モノクローナル抗体13B、24Bの高リスク型L1/L2-キャプシドへの結合



マウスモノクローナル抗体 (1:100)

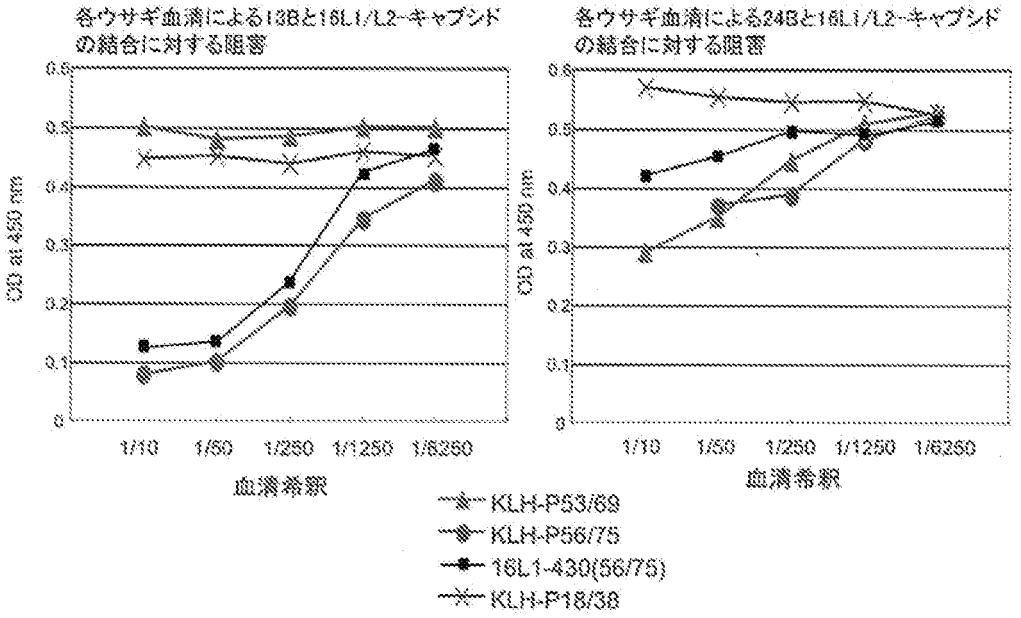
[図5]

図5: ELISAを用いた交叉性中和抗体抗体価測定法



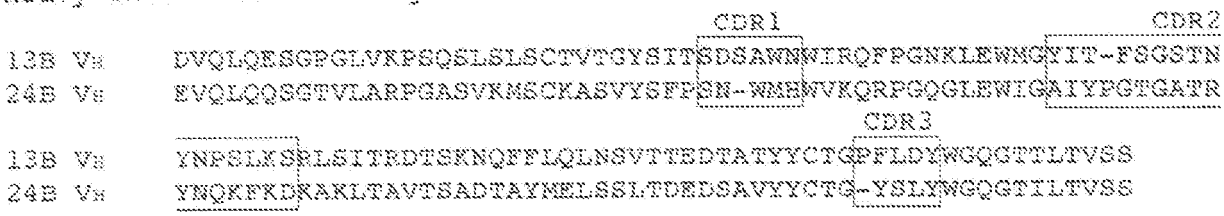
[図6]

図6：ペプチドまたはキメラキャプシドによるウサギでの交叉性中和抗体誘導

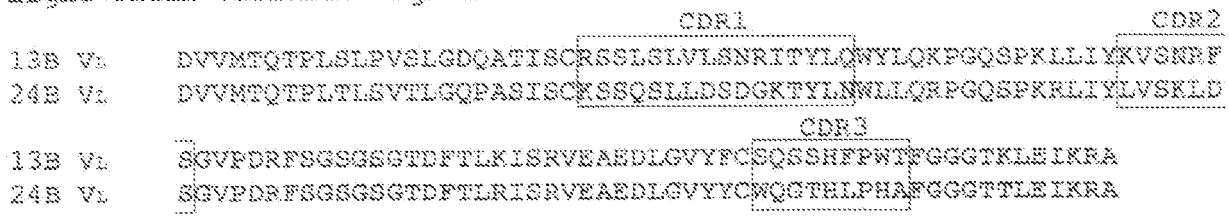


[図7]

Heavy-chain variable region



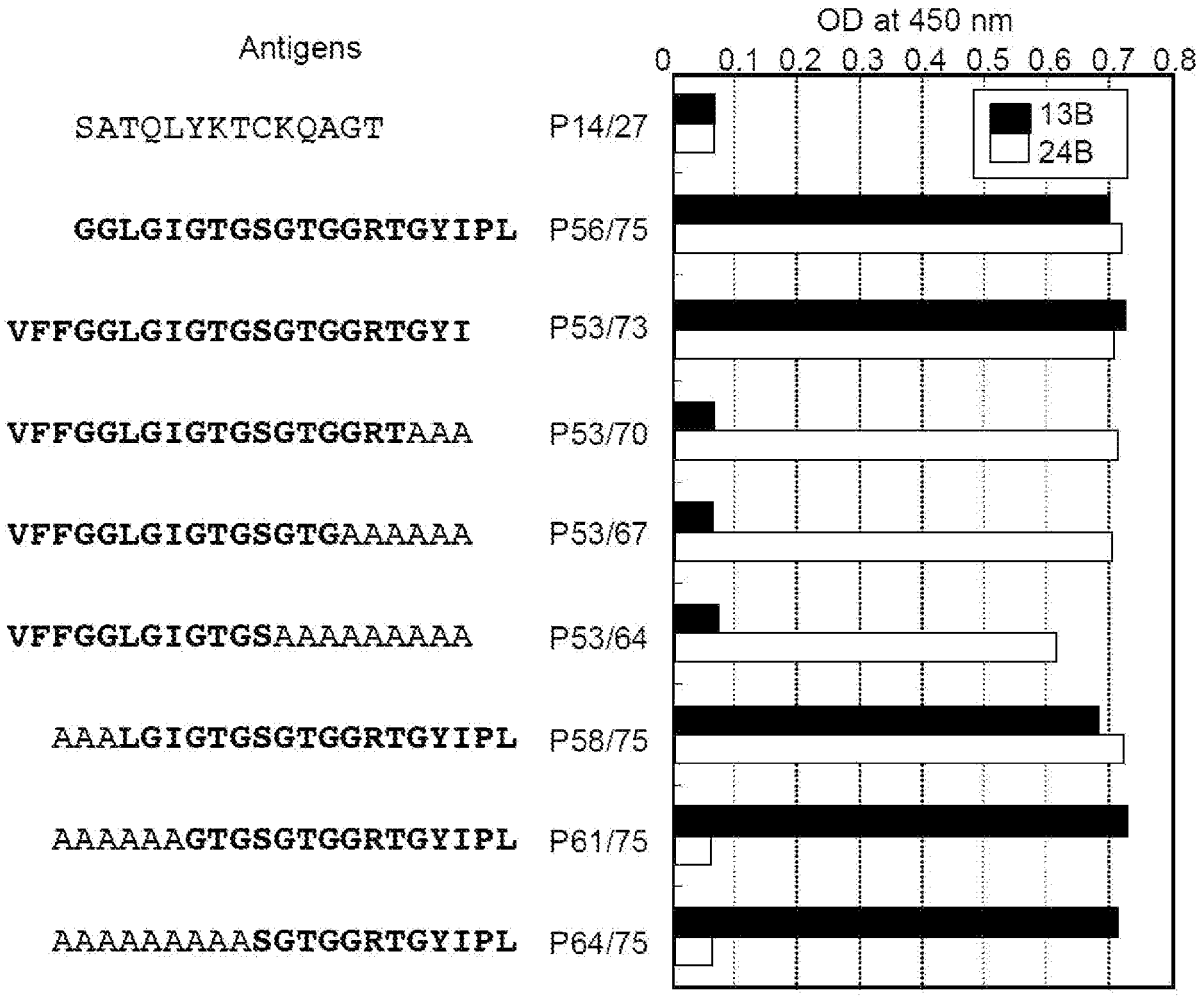
Light-chain variable region



は、相補性決定領域（CDR）を示す。

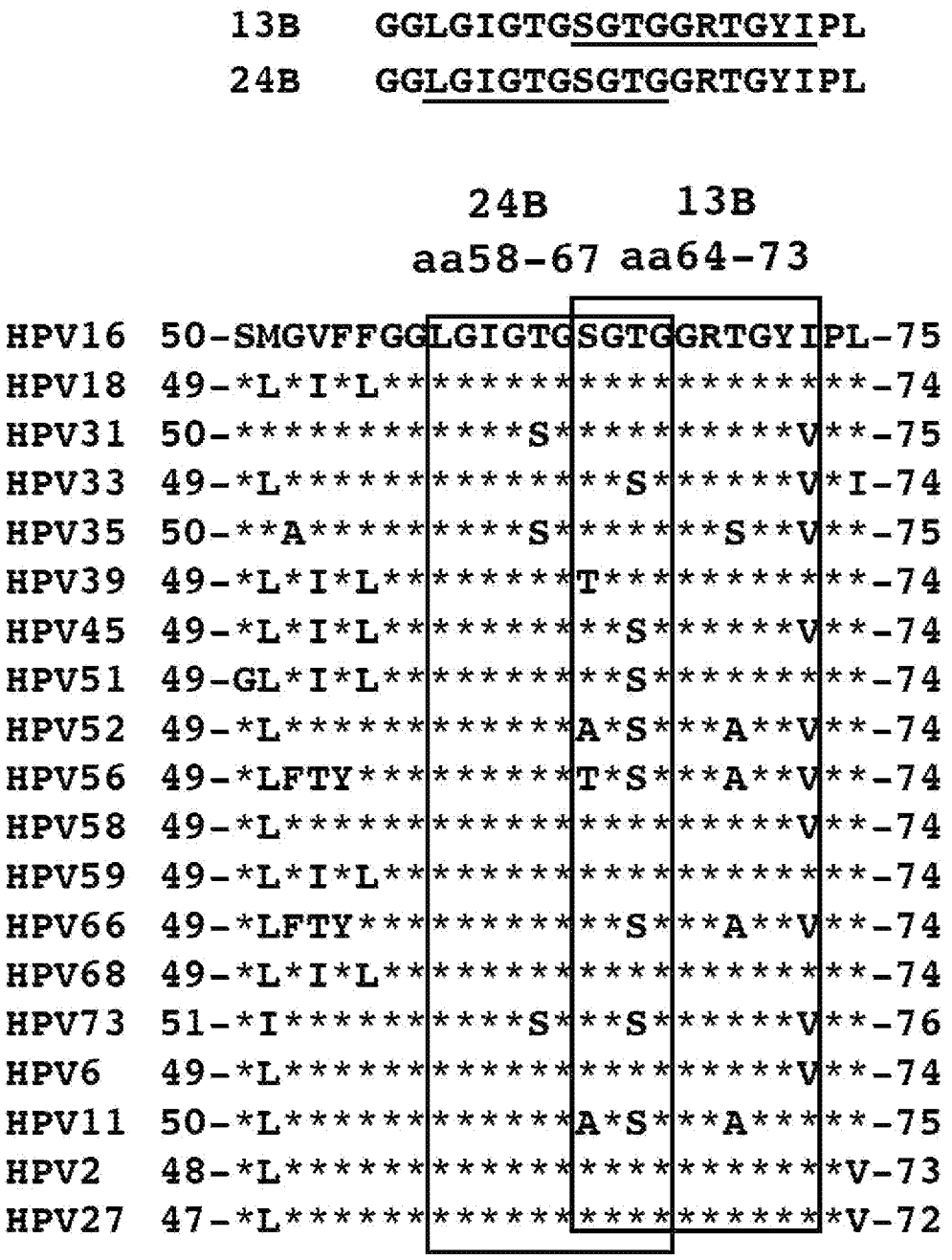
[図8]

図8：ELISAによるエピトープマッピング



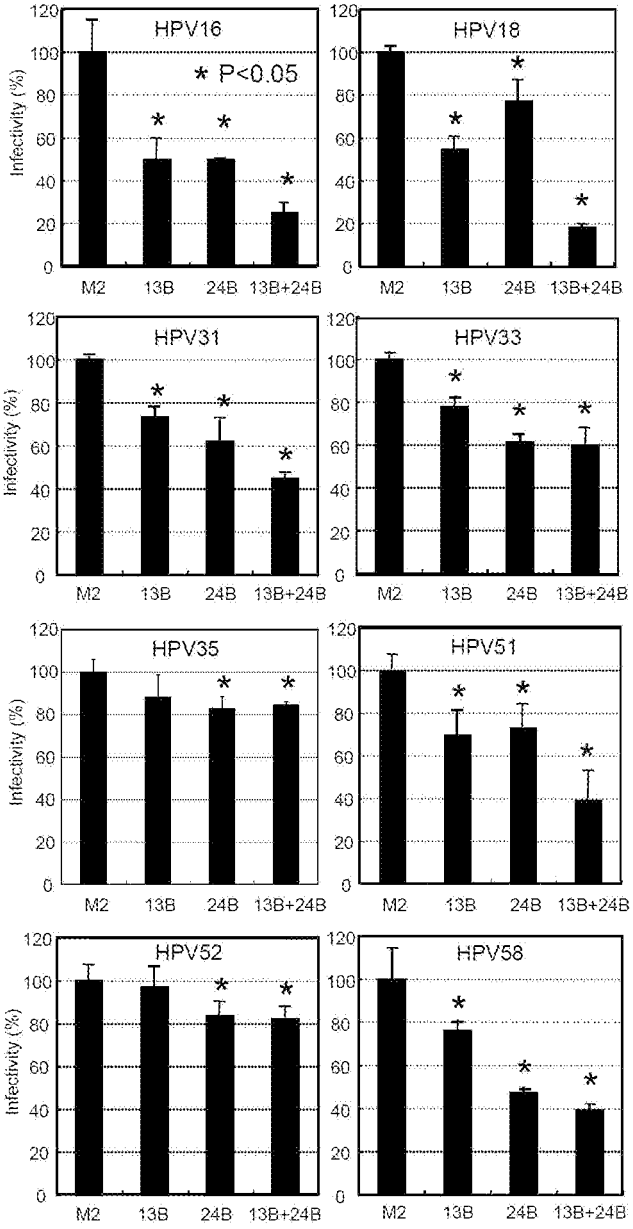
[図9]

図9：モノクローナル抗体13B、24Bが認識するL2エピトープ



[図10]

図10：モノクローナル抗体13B、24BによるHPV偽ウイルス(PsV)の中和



[図11]

図11：モノクローナル抗体13B、24Bの高リスク型 L1/L2キャプシドへの結合

